

こころの講座 2

てんかん

お問合せ先

静岡市こころの健康センター

〒422-8006 静岡市駿河区曲金三丁目1-30

TEL 054-285-0434

静岡市ホームページ

<http://www.city.shizuoka.jp/>

静岡市こころの健康センター

てんかんとは

てんかんとは、さまざまな原因により起こる慢性の脳の疾患で、大脳の神経細胞の過剰な放電による反復性のてんかん発作を主徴とし、それにいくつかの臨床及び検査所見の異常を伴うものです（WHOの定義）。

てんかんの原因は、分娩時の頭部外傷、先天性代謝異常、先天性奇形、脳炎・髄膜炎などの感染症、変性疾患、脳腫瘍、脳血管性障害などさまざまですが、てんかんを持つ人の70%は原因がわかっていません。てんかんの発生率は人口1,000人に対し5～10人で、日本に約60万人の患者さんがいます。小児から思春期に発病することが多いのですが、65歳以上で発病することもあります。

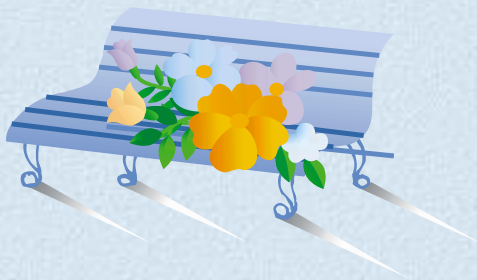


てんかんの発作症状

てんかん発作型は、
てんかんの発作症状から診断します。

発作観察のポイント

1. 発作はいつ、どのように起こったか
2. 身体の中のどの部分から発作が始まったか
(全身からか、身体の一部からか、左右差はあるか)
3. 意識は失われたかどうか
4. 発作はどのくらいの時間続いたか
5. 異常な行動や精神症状はあるか
6. 発作の誘因になることはあるか



てんかん発作型の分類 (国際分類)

I. 部分発作

1. 単純部分発作：意識の保たれる発作
2. 複雑部分発作：意識が失われる発作
3. 二次性全般化：1や2からけいれん発作に移行する発作

II. 全般発作

1. 欠神発作：ボーとして短時間意識を失うもの
2. ミオクローニー発作：身体の一部あるいは全身の筋肉がピクピクするもの
3. 間代発作：ガクガクする発作
4. 強直発作：突っ張る発作
5. 強直間代発作：突っ張って、その後ガクガクする発作
6. 脱力発作：筋肉の力が抜ける発作

てんかんの診断

発作型、検査所見などをもとに
てんかんの分類を診断します。

診断に必要な検査

1. 脳波

脳波は、頭部に貼り付けた小さな電極から脳波を記録する検査で、脳細胞からの電気信号は波として記録されます。てんかんの脳波は特別なパターンを示すことがあるためてんかんの診断に不可欠です。

2. MRIとCT

脳の構造の変化を調べる検査で、脳血管障害、腫瘍、外傷などてんかんの原因検索に有用です。MRIの方がCTより精度の高い情報が得られます。

3. SPECT

脳の局所血流量を調べる検査で、てんかんの原因部位に関する情報が得られます。

てんかんの治療

抗てんかん薬による薬物治療と外科的治療の2つがあります。

抗てんかん薬は、発作のタイプ、発作の頻度、薬の副作用、患者さんの年齢などを基準にして決められます。

外科手術は抗てんかん薬による薬物治療で発作が抑えられないとき、発作を起こしている脳の間所がわかり、かつ人格や機能に影響を与えないときに行います。



てんかん発作を防ぐポイント

- (1) 規則正しい生活リズム、十分な睡眠、安定した気持ちを保つ
- (2) 規則正しい服薬
- (3) 発作の誘因を理解しそれを避ける
- (4) 周囲のてんかんに対する理解と知識

発作時の対応のポイント

- (1) 発作中に口に何かを入れたり、薬や水を飲ませてはいけません。
- (2) 発作は5～10分で自然におさまります。あわてて救急車を呼ぶ必要はありません。ただ、意識が戻らないうちに次の発作が起きたり、発作が10分以上続いた場合は救急車を呼んでください。
- (3) 大きな発作の場合には、安全な場所に寝かせ、頭の下に柔らかいものをあて、顔を横に向けます。発作後意識が回復するまで誰かがついてあげましょう。